

Sébastien Vonlanthen (セバスチャン フォンランテン) は la Maîtrise de Fribourg (フリブール聖歌隊) 及び Collegium Musicum Lausanne (ローザンヌ コレギウム ムジクム) の指導者として活躍、またオルガンソリスト、合唱団指揮者、通奏低音奏者、リュトリー教会のオルガン奏者としても活動しています。

彼は古典音楽をレパートリーとするプロの専門器楽奏者と声楽家達を集め、ローザンヌ コレギウム ムジクムを設立しました。2013年ローザンヌで開催されたバッハフェスティバルでの初演では国際レベルでの潜在性を秘めた楽団であるとの評価を受けました。

古楽に熱意を持ったセバスチャン フォンランテンは定期的に歌のアンサンブル 1450 と共同企画をしたり、Louverain 合唱団、アンサンブル Hortvs Amoris、Ensemble vocal de Poche、とりわけモンテヴェルディの「Vespro della Beata Vergine (聖母マリアの夕べの祈り)」において指導の協力を当たりました。

声楽アンサンブルの Crescendo と Hortvs Amoris を指揮した後、2013年にフリブール聖歌隊の音楽指導者として任命されました。同様に女声アンサンブル Calliope、リュトリーの Chapelle Vocale そして Sommentier 合唱団を指揮しています。

器楽、合唱の指揮者として、またソロの演奏家としての活躍は定期的にラジオやテレビで放送されています。

Neuchâtel 音楽院 ピアノ科 (Marc Pantillon 師事) 及びオルガン科 (Robert Märki 師事) を同年に修了した後、Pierre-Laurent Haesler のもとで通奏低音を学びました。その後彼は Haute Ecole de Musique de Lausanne (ローザンヌ 高等音楽院) オルガン科を小糸恵の指導のもとでコンサーティスト及びソリスト修士課程修了後、Laurent Gendre のクラスで宗教音楽における合唱指導の修士課程も修了しています。平行して Luca Ricossa と Christiane Haymoz のもとでグレゴリオ聖歌を、ルネッサンス時代のスタイルの声学即興法を Jean-Yves Haymoz のもとで学んでいます。